

令和6年度 倉敷市立倉敷翔南高等学校 学 校 評 価 書

【学校経営目標・計画】

1 進路実現に必要な基礎学力の育成のための授業の充実	2 社会で通用する人間性を養うためのキャリア教育の推進	3 よりよい人間関係づくり、社会参画のための特別活動の充実	4 魅力ある学校づくりの推進
・翔南授業ルールを基本とした生徒が学びの主体となる「わかる授業」の実施 ・授業におけるICT活用、学び直し、UD化の推進 ・教師の指導力向上のための授業研究・校内研修の実施	・「総合的な探究の時間（STEP）」「産業社会と人間」「企業研究」等を核とした教科横断的指導によるキャリアトレーニングの実践 ・キャリア・パスポートを活用した継続的指導 ・規範意識を高め、社会に必要なマナーやコミュニケーション力を育成する取組	・学校行事、生徒会活動、委員会活動、地域連携活動、ボランティア活動等への積極的参加によるライフスキルトレーニングの実践 ・自他を尊重し健康で安全な生活態度や規律ある習慣の定着	・教育活動全体を通して「社会人として自立するための（3つの力）をつける」取組の充実 3つの力＝「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」 ・新教育課程（完成年度）の円滑な実施 ・本校の特色・魅力の情報発信

4段階評価(A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

	担当 (分掌・年次)	評価項目(具体的な計画)	今年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		総合 評価	改善方策
				達成状況	評価	達成状況	評価		
1	教務課	・翔南授業ルールの徹底をする。 ・オープンクラスウィーク等を通して、授業研究を充実させ、わかる授業を実践する。	・生徒に社会人として自立する力をつけるために、翔南授業ルールをすべての授業で徹底する。 ・「翔南授業ルールアンケート」により検証) ・学校自己評価アンケート 「授業は分かりやすく工夫されている。」(生徒) ⇒普通以上の回答 100%をA、80%以上をBとする。(昨年度82%) 「授業力向上のため、授業評価や授業公開を実施している。」(教職員) ⇒肯定的回答 100%をA、90%以上をBとする。(昨年度97%)	・6月の教員対象アンケート結果により、翔南授業ルールはほぼ全ての授業で実践できている。今後も引き続き指導の徹底を図るとともに、「わかる授業」の実現を目指した授業改善の推進が必要である。 ・5月のオープンクラスウィークで、互いの授業参観を行った。10月には、学校関係者、保護者、学校運営協議会委員対象の授業公開を実施予定である。	B	・12月の生徒への授業アンケートにより、翔南授業ルールの各項目についての「普通」以上の回答は、ほぼ95%前後となっている。翔南授業ルールは昨年同様定着していると判断できる。 ＜学校自己評価アンケート＞(肯定的回答) (生徒)「授業は分かりやすく工夫されている。」 →88% (昨年度比66%(+増)) (教職員)「授業公開・授業評価を行い、結果を授業力向上に活かしている。」 →97% (昨年度比±0) ・5月、10月にはオープンクラスウィークで相互の授業参観を行った。また10月に授業公開を実施した。(17名が参観)	B	B	・「翔南授業ルール」のより一層の定着を図るとともに、教科に対する興味・関心を高め、「わかる授業」が実践できるよう、授業改善を進めていきたい。
	1年次	・翔南授業ルールを遵守する。 ・わかる授業の実践をする。	・授業準備を完了し、開始時間を迎える。(昨年度1年次82.8%) ・授業の前後できちんと挨拶ができる。(昨年度1年次75.9%) ・授業は分かりやすく工夫されている。(昨年度1年次82.0%) ⇒3項目とも年次アンケートにて肯定的回答を80%以上とする。(A:85%以上、B:80%以上)	・開始時間までに準備物と服装が完全にできている生徒は8割程度。服装については教員の声掛けは素直に従うが、挨拶までしばらく待っている。 ・挨拶はできているが、今後も指導が必要。 ・ITを活用して授業中での個別指導にも力を注いでいる。	B	・授業準備を完了し、開始時間を迎える。→100% ・授業の前後できちんと挨拶ができる。→96.4% ・授業は分かりやすく工夫されている。→95.1% - 翔南授業ルールの定着は1年次にしておくべきとの考えにより、標記項目については重点的に取り組んだ。3項目とも自己評価ではあるが肯定的回答の目標を達成した。例年数学が苦手な生徒が多い中、数学の授業でグループワークを取り入れるなど主体的に取り組ませる工夫をした。教育相談室と連携し、総務の時間に社会的スキルを育成する授業展開ができた。	A		・「翔南授業ルール」については1年次に徹底することの重要性を認識する。来年度は系列授業など専門科目が増えるため、一層の定着を図る。併せて教科に対する興味・関心を高め、「わかる授業」が実践できるよう、授業改善を進めていきたい。
	4年次	・自己管理能力を高め、社会に通じる力を身につける。	・卒業見込み生徒全員が目標単位を取得し、卒業を目指す。全員卒業＝A、2名卒業＝B、それ以外C	・生徒一人一人との個別面談や家庭との連携により、個々の目標に応じた学校生活を送ることができている。	B	・2名が卒業予定である。この1年間で、落ち着いた行動や先生への対応など社会性は大きく向上した。	B		・残る1名の生徒の対応を丁寧に行う。
2	進路課	・産業社会と人間、職場見学・体験・学校見学、企業研究などを通して進路意識を高め、生徒一人ひとりの適性に合った進路指導を実践する。	・卒業見込み生徒57名のうち、就職希望者と進学希望者が進路決定して卒業できるようにする。(Aは100%、Bは95%以上) ・キャリアトレーニングに参加した生徒の進路意識が高まる。(年次アンケート:自分の進路実現に向けて意欲的にチャレンジAは80%、Bは70%) ・進路希望調査で「未定」と答える生徒の数を減少させる。(Aは25%以下、Bは35%以下)	・卒業見込み生徒の進路活動は、進学希望者は内定した生徒もあり順調に進んでいる。就職希望者は1次の就職試験に出願した生徒は26名である。今後就職活動に参加する生徒と就労支援の必要な生徒の活動ができるよう援助していきたい。 ・2年次のキャリアトレーニングに参加した生徒は、活動の成果が見え、今後の進路活動に活かせると思われる。	B	・進学希望者14人は全員合格した。就職希望者(学校推薦)は28人が内定。未定14人である(96.6%内定) ・2年次キャリアトレーニングに参加した生徒は、自分の進路実現に向けて意欲的にチャレンジに答えたのは77.8%であった。 ・進路希望調査(12月)・1年次の未定の数(1年次21.7%、2年次25.4%、合計23.5%)	B	B	・年々支援の必要な生徒が増えている現状にあり、本格的な活動の前に就職アドバイザー等と連携して、面接練習や試験対策をしていくことが必要である。
	2年次	キャリアトレーニングなどの学校行事に主体的に参加し、進路実現に必要な力をつける。	・キャリアトレーニング等進路行事の参加率を70%以上にする。(昨年度2年次:バス見学会82.5%、職場体験87.3%) ・自分の進路実現にむけて、意欲的にチャレンジしている。 ⇒年次アンケートにて肯定的回答を65%以上とする。(Aは70%、Bは65%)	・キャリアトレーニングの参加状況は以下のとおりで、参加率はかなり高かった。 - バス見学会:93.7% - 職場体験:81.0% - 職場体験を通じて、仕事に対する意欲を高めた生徒も多く、今後の進路活動に活かせるものであったと思われる。	A	・キャリアトレーニングの参加状況は(中間)のとおりである。バス見学会:93.7%、職場体験:81.0% ・自分の進路実現に向けて意欲的にチャレンジしている。 →77.8% - 職場体験を通じて、仕事に対する意欲を高めただけでなく、いい意味で社会の厳しさを学んだ生徒も多かったと思われる。アルバイトに挑戦した生徒も多く見られた。	A		・進路に関する情報を充実するだけでなく、キャリアトレーニングのような実際の体験や実際に働く人の講演などを通じて学ぶ機会を増やす取組を進めていきたい。
	3年次	・進路意識を高め、ホームルーム活動や企業研究等を通して社会人に必要な力をつける。 ・進路課と連携し、進路の手引きとキャリア・パスポートを活用する。	・卒業見込み生徒57名のうち、就職希望者と進学希望者が進路決定して卒業できるようにする。(昨年度97%)。 - 評価基準 A-100% B-95%以上 ・定例の年次会議等で毎回普段の様子に加え、卒業後の進路についても生徒情報を共有し、生徒一人ひとりに適した支援を行い、自立する力の育成を行う。 - 年次アンケート項目 「自分の進路実現に向けて、意欲的にチャレンジしている。」 - 評価基準 A-肯定的回答90%以上 B-80%以上	・卒業見込み生徒の進路活動は、進学、就職希望者ともに多くの生徒が順調に取り組んでいる。就職希望者への求人票管理システム「handy進路指導室」の活用など「take-ア」の活用も広がり、効率的、効果的に定着していると思われ、就労支援の必要な生徒や進路未決定の生徒への対応など個別に援助していきたい。 2年次のキャリアトレーニングに参加した生徒は、活動の成果が見える。	B	・卒業見込み生徒57名(4～年次を含む)のうち、100%卒業予定。進学希望者100%合格、就職希望の内定率97.1%(未定1名)。(昨年度97%) ・生徒の進路においても年次の教員間でしっかりと情報共有し、生徒一人ひとりに適した個別の支援を行った。進路課の提案により、複数の外部機関も活用でき、生徒の卒業後の進路につなげることができた。 ・年次アンケート項目「自分の進路実現に向けて、意欲的にチャレンジしている。」の肯定的回答が88.1%と高くなった。	B		・個別の支援が必要な生徒が増えてきているが、学校生活は問題なく過ごせ、就職、進学で問題に直面するケースが出てきた。今後も個別対応の生徒が増えてくると思われるため、特に就職を目標にすることを見据え、外部機関との連携など見込みの時期から取り入れていけるような取組を進めていきたい。

	担当 (分掌・年次)	評価項目(具体的な計画)	今年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		総合 評価	改善方策
				達成状況	評価	達成状況	評価		
3	生徒課	・学校行事、生徒会活動、委員会活動、ボランティア活動等を通じて、社会の一員として自主的・実践的な態度を育てる。 ・自他を尊重し安全な生活態度や規律ある習慣を定着させ適切な行動がとれる力を育成する。	学校自己評価アンケート ・生徒の自主性を重視した活動が推進されている。(教員対象・昨年度肯定的評価100%) ・言葉遣いや服装、日常生活のマナーが身につくように指導してくれる。(生徒対象・昨年度肯定的評価87%) 2項目共に昨年度以上の場合「A」、昨年度以下5%までを「B」	・教職員に生徒指導に関する対応等については年度当初にオリエンテーションを行い、統一した指導ができるようにした。入学生に対して4月に学校のルール等について説明をした。 全校集会や年次集会で自分の言動に気を付けるよう注意をしている。 ・先生方が積極的に声掛けをして、できたことや頑張っていることを賞賛して生徒に自信を持たせている。	B	学校自己評価アンケート ・生徒の自主性を重視した活動が推進されている。(教員対象・肯定的評価97%) ・言葉遣いや服装、日常生活のマナーが身につくように指導してくれる。(生徒対象・肯定的評価91%) 生活指導についての肯定的評価は、教員生徒共に昨年度より高くなっていて、先生方の日々の指導が生徒に行きわたり落ち着いた学習環境になっていると思われる。特に1年次の指数は高く、来年度以降学校全体が変化向上していくと思われる。 ・ボランティア参加者述べ129名。(昨年度比10名増加)	B	B	・規範意識や規律ある習慣を身につけさせることは基本的な指導とする。しかし、一部生徒の問題行動に対して、多くの時間と労力が必要とされるが、大多数の健全な生徒の言動を認め、安心安全で活発な学校生活が送れるようにすることを目指す。
	厚生課	・保健指導により、心身ともに健全な生活習慣を身に付けさせるとともに、主体的に心と体の健康を守ろうとする意識を育む。特に、今年度は歯の治療率の向上を目指す。	・健康診断結果を生徒に通知し治療を促したり、LHR(心と体の健康に関する講座)で健康に関する講話や実技指導を行い、治療率の向上を目指す。 A:治療率30%、B:治療率10%、C:治療率10%未満 (参照:令和5年度治療率17.7%)	・今年度から、保護者懇談や担任面談をして、治療へ行かない生徒の理由(問題点)をまとめた表を作成し、今後の指導に役立てている。また、昨年と同様、11月には外部講師を招き、歯の健康に関する講演やブラッシングの実技指導を行う予定にしている。	B	・健康診断結果を、夏季の保護者懇談を通じて本人及び保護者に通知したり、カウンセリング週間の面談などを利用して治療への働きかけを行った。また、11月には、年度当初の計画どおり、LHRで歯の健康に関する講演やブラッシングの実技指導を行った。実技指導では、最初、嫌がる生徒もいたが、徐々に慣れていき、良い雰囲気での活動を行うことができた。今後も継続的に実施し、治療率の向上に努めていきたい。 (治療率参照:令和4年度14.5%、令和5年度17.7%、令和6年度29.2% 1月17日現在)	B		・2年間の取り組みによって治療率が向上し、あと一息のところまで来ている。来年度は3年計画の最終年度なので、保護者や担任と協力して目標(治療率3年で30%以上)を達成したい。
	教育相談室	・ライフスキルトレーニングや「UP!」を通して、他者とつながる力を身につけ、よりよい人間関係を形成する。 ・生徒の個々の悩みや問題に対し、外部機関と繋げ、安心して過ごせる学校生活を実現する。	・ライフスキルトレーニングを活用し、コミュニケーション力を身に付けさせる。 ・夜間部では学校設定科目「UP!」を通して、社会的スキルを育成する。 ・年次アンケートの肯定的評価(Aは80%以上、Bは60%以上) ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の外部機関と連携し、好ましい人間関係づくりや学校生活を支援する。	・ライフスキルトレーニングを通じて社会的スキルを育成する時間が取れた。 ・夜間部「UP!」はSCと連携し実施することができた。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに繋ぐべき事案を把握し、様々な機関と連携を図ることができた。	B	・1年次を対象「生徒への学校生活アンケート」結果の肯定的評価「中学校時代に比べコミュニケーション能力がついた」→94.6% 「授業中のグループ活動で誰とでも関わることができる」→85.7% 「クラスでより良い人間関係が築けている」→89.2% ・多くの生徒がコミュニケーション力の向上を実感し、他者との関わりを前向きに行うことができた。 ・SCやSSWの活用も継続的にを行い生徒の学校生活を支援することができた。	B		・SCやSSWとの情報共有や連携をさらに綿密にし、生徒がよりよい学校生活を過ごせるよう助言等いただく。 ・今後も引き続き、SC等と連携し生徒の特性を踏まえたコミュニケーショントレーニングを計画・実行していきたい。
	2年次	他者を尊重し、好ましい人間関係を築く力とコミュニケーション力を身につける。	・始業前や放課後、先生方や友人に挨拶ができる。(昨年度1年次79.7%) ・自分に関わる周囲の人を傷つけないよう気をつけている。(昨年度1年次75%) ・クラスでよりよい人間関係が築けている。(昨年度1年次59.4%) ⇒3項目とも年次アンケートにて肯定的回答を70%以上とする。 (Aは80%、Bは70%)	・授業開始時の号令指導を根気強く行うことで、挨拶ができる生徒が増えていく。 ・年次で情報を共有し、生徒への声掛けを意識的に行うことで、年次全体の雰囲気も落ち着き始めている。 ・今後も情報共有と声掛けを続けていきたい。	B	・始業前や放課後、先生方や友人に挨拶ができる。→94.4% ・自分に関わる周囲の人を傷つけないよう気をつけている→97.2% ・クラスでよりよい人間関係が築けている→88.9% 年次目標で「周りの人のいいねを見つけよう」を掲げ、年次全体で取り組んだことで、他者を尊重する意識が高まったと考えられる。	A		・年次目標における取組を1年間で2回行ったが、普段から生徒への声掛けを続けることでより高いコミュニケーション力を身につけることができると考えている。
4	教務課	・広報活動を充実させる。 ・新教育課程を円滑に実施する。	・オープンスクールの実施、ホームページの定期的な更新、魅力ある学校案内の作成を目指す。 ・新学習指導要領での魅力ある教育課程を実施する。	・オープンスクールを実施し、生徒96名、保護者39名の参加があった。 ・ホームページ等を通し、本校の活動を発信した。 ・新教育課程については、順調に実施ができている。	B	・「ホームページ」や「学校案内」などを通して、本校の活動を発信した。 ・「翔南CS通信」を作成し、児島地区内の公民館に設置したり、学校所在の町内会へ回覧したりした。 ・オープンスクールを実施し、体験授業等も行ことができた。 ・新教育課程について、順調に実施できた。	B	B	・新教育課程の総括を行い、改善点を明確にし、さらに円滑に実施できるように来年度にいかしていきたい。 ・さらに積極的に本校の情報を発信していくための方法等を検討する。